

SAXOPHONE

ワンポイント・アドバイス

I 行進曲「煌めきの朝」

作曲：牧野圭吾

・アルトは全体的に音域が高めです。普段からのリード選びはもちろんですが、吹きすぎると周りの音をかき消してしまったり、音色も潰れてしまったりと繊細なところが多いので、よく自分の音、周りの音を気にしながら吹いてみてください。

・【A】メロディーに20～21小節目、24～25小節目にかけてスラーでオクターブの跳躍があります。オクターブキーを押したとき、音程と音色が変わってしまわないよう、跳躍練習をしておきましょう。練習するときには、上がった高い音が大きにならないように、よく聴きながら練習してみてください。【A】最後の小節のトリルも非常に難しいです。次がすぐメロディーに戻るので、何回トリルをすれば次のメロディーに間に合うのかフルート、クラリネットと確認しておくといいですね。

・【C】後打ちのアルトとテナーは軽やかに。3パートとも音が高いので、メゾフォルテよりも小さいつもりで演奏しましょう。

・【H】メロディーの途中に出てくるスタッカートのニュアンスは【G】からのクラリネットにそろえましょう。スタッカートを意識しすぎて、フレーズが途切れないように注意しましょう。

・【L】からのトリルは、メロディーをかき消さないように。198小節目の高いレのトリルは、レの指（オクターブキー+C1）にC2は抜いてC3でトリルだとやりやすいです。

・【H】テナーの対旋律はスラーがかかっており、跳躍が難しいです。アンブシュアが固いと跳躍しづらいのでアンブシュアを柔軟にしておきましょう。

II ポロネーズとアリア ～吹奏楽のために～

作曲：宮下 秀樹

・付点のリズムが多く出てきます。八分付点だと、十六分音符3つ分の長さです。三連符のような長さになってしまうことが多いので気を付けましょう。

八分休符の裏から入るパターンが多いです。休符のところで息の準備をしっかりと発音が遅れないように。

・【A】アルト1小節目の三連符の最後のドは1+Tcの替え指で吹くとスムーズです。

・【H】72小節目のアルト1stは3拍目フルート、クラリネットとタイミングをしっかりと練習しましょう。

・【I】バリトンからアルト2ndのアルペジオの動きはチューバやコントラバスなどを超えないように、優しく穏やかな感じで演奏しましょう。

・【I】78小節目からは83小節目に向かって、音符が上行していく時の響きをよく聴いてみてください。アルト2ndは三連符からの85小節目にかけて、クラリネット3rd、ホルンとタイミングを練習しておきましょう。

SAXOPHONE

ワンポイント・アドバイス

Ⅲ レトロ

作曲：天野正道

- ・ポップスなので、常にビートを大切にしながら演奏できると、かっこよく決まります。特に八分休符や十六分休符が出てきたときにお休みではなく、ビートをしっかりと感じて息の準備をしておきましょう。食いつきがはっきりと聴こえます。
- ・ピッチベンド（しゃくり）は、つつい下げすぎてしまいますが、他のパートとニュアンスを揃えよう。
- ・アルトとテナーはユニゾンが多いので音の処理、止め方も揃うとポップスのかっこよさができます。
- ・【C】の頭など、いくつかグリスダウンが出てきます。最初は書いてある音をしっかりと伸ばしてから、指で下がりながら息も抜いて吹きましょう。
- ・【E】からは、縦がカッチリ合うようにリズム隊とよく練習してみてください。伸ばして息のスピードが落ちないように気をつけましょう。
- ・67小節目のバリトンは「ミーレ」の「レ」は、次の小節に残らないようしっかりと止めましょう。

Ⅳ マーチ「ペガサスの夢」

作曲：水口透

- ・【A】からアルト1st、2ndのユニゾンが続くので音程に気を付けましょう。【B】の最後にもオクターブで「レ」を伸ばす所も音程が高くなりやすいので注意しましょう。
- ・17～20小節目のテナーは、跳躍した先にオクターブのソが出てきます。ほかにも同じ音でタンギングをしなければならぬところがいくつか出てきます。裏返りやすい音なので、指とタンギングのタイミングが合っているか、アンブシュアが固くなっていないかなど気を付けてみましょう。それでもうまくいかない場合は、楽器の状態を確認してみましょう。
- ・【E】終わりのバリトンがオクターブの「レ」から入るところは、それまでのクラリネットの流れを損ねないように丁寧に入りましょう。
- ・【F】98小節目から低い音が続きます。アンブシュアが固い低い音が当たりになったり、音が広がってしまうのでアンブシュアを柔軟にして演奏しましょう。